

4つの事業領域

従来の5つの事業部門を再編し、2024年10月に、「アグロ&ライフソリューション」「ICT&モビリティソリューション」「アドバンストメディカルソリューション」「エッセンシャル&グリーンマテリアルズ」の4部門体制をスタートさせました。

アグロ&ライフソリューション

Agro & Life Solutions

主な製品・サービス

農業関連事業

生活環境事業

アニマルニュートリション事業

- 化学農薬
- 家庭用殺虫剤
- メチオニン
- バイオラショナル

売上収益構成比

20.7%

コア営業利益※1・ROIC※2

■ コア営業利益(左軸) ● ROIC(右軸)

研究開発費※1・事業投資※1 (キャッシュベース)

■ 研究開発費 ■ 事業投資(キャッシュベース)

※1 2022年度までは健康・農業関連事業部門 ※2 2023年度までは健康・農業関連事業部門

技術基盤

ケミカル・バイオラショナル両輪での優れた新剤開発力

化学農薬

バイオラショナル

有機化合物機能設計

×

新剤開発力

有機化合物機能設計

×

BX(天然化合物合成)

ICT&モビリティソリューション

ICT & Mobility Solutions

主な製品・サービス

半導体関連事業

ディスプレイ材料事業

モビリティ関連事業

- フォトレジスト
- 偏光フィルム
- スーパーエンジニアングプラスチック
- 半導体用プロセスケミカル
- タッチセンサー
- レゾルシン
- 高純度無機材料
- 化合物半導体材料
- セパレータ

売上収益構成比

23.3%

コア営業利益※3・ROIC※4

■ コア営業利益(左軸) ● ROIC(右軸)

研究開発費※3・事業投資※3 (キャッシュベース)

■ 研究開発費 ■ 事業投資(キャッシュベース)

※3 2022年度までは情報電子化学部門+エネルギー・機能材料部門 ※4 2023年度までは情報電子化学部門+エネルギー・機能材料部門

技術基盤

半導体材料分野で核心技術を深化、イノベーションを加速

AI含めた技術深化で、微細化対応や新しいタイプの半導体が必要に

フォトレジスト

半導体用ケミカル

配合設計有機合成技術

×

独自の分子設計合成技術

最先端対応の高純度化・分析技術

×

ケミカル設計プロセス技術

アドバンストメディカルソリューション

Advanced Medical Solutions

主な製品・サービス

CDMO事業※1

再生・細胞医薬事業(創薬)

- 高度化低分子医薬CDMO
- 医療用オリゴ核酸※2CDMO
- 再生・細胞医薬CDMO

売上収益構成比

2.4%

※再生・細胞医薬事業の創薬に係る費用は、当面の間全社共通費用として計上

※1 医薬品等の製法開発、製造受託等を行う事業。CDMOはContract Development and Manufacturing Organizationの略

※2 最先端のゲノム編集治療に必要な核酸。一般的な核酸医薬と比較するとはるかに長い、100mer超のgRNAが典型例。医療用途では高純度品の必要性が指摘されている

コア営業利益・ROIC

■ コア営業利益(左軸) ● ROIC(右軸)

研究開発費・事業投資(キャッシュベース)

■ 研究開発費 ■ 事業投資(キャッシュベース)

技術基盤

高い合成力を武器としたCDMO事業、iPS細胞実用化のフロントランナー

CDMO(低分子、オリゴ核酸)

再生・細胞医薬

有機材料機能設計

×

化学プロセス設計

開発・生産技術

×

BX(ES/iPS細胞技術)

エッセンシャル&グリーンマテリアルズ

Essential & Green Materials

主な製品・サービス

ポリオレフィン事業

メタアクリル事業

ライセンス事業

- ポリエチレン(PE)
- ポリプロピレン(PP)

売上収益構成比

34.5%

コア営業利益※5・ROIC※6

■ コア営業利益(左軸) ● ROIC(右軸)

研究開発費※5・事業投資※5 (キャッシュベース)

■ 研究開発費 ■ 事業投資(キャッシュベース)

※5 2022年度まではエッセンシャルケミカルズ部門 ※6 2023年度まではエッセンシャルケミカルズ部門

技術基盤

触媒設計等の要素技術と豊富な実装経験で事業化を加速

ライセンス事業

環境負荷低減事業

触媒設計

プロセス開発

有機・高分子材料機能設計

その他 住友ファーマ(低分子医薬品創薬関連)など

21 住友化学レポート 2025

22